

2015ひろしまフラワーフェスティバル(F.F.)は2日目の4日、平和への願いに包まれた。被爆70年の節目に開かれた「花と平和の祭典」。広島市中区の平和大通り一帯でアーティストが歌声や演奏を響かせ、祈りをささげた。陸上や神楽など躍動の舞台も繰り広げられた。(1面関連)



2015 ひろしま F.F.

音楽祭 加藤さんら熱唱

前日から降り続いた雨が上がり、青空が広がった。歌を通じて平和の大切さを訴えるF.F.の被爆70年企画「ピース・アクト・ヒロシマ音楽祭」が開かれた4日、会場のカーネーションステーション1階には約5万人が詰め掛け、平和を願う熱気に包まれた。

「昭和20年7月16日午前5時30分。人類にとって、恐るべき核兵器の時代が始まった」。米国が核実験に初めて成功した日を挙げ、音楽祭の呼び掛け人で歌手の加藤登紀子さん(71)が語り始めた。

故中沢啓治さんの漫画「はだしのゲン」から抜き出した言葉。加藤さんが再構成し、核の時代の始まりや放射線被害の怖さを切々と訴え、音楽祭は幕を開けた。

広島ゆかりのミュージシャンたちが集まった。島谷ひとみさん(34)、TUBEさん(32)、二階堂和美さん(41)…。平和への思いを口にし、歌声を響かせた。

音楽祭のクライマックス

のびやかな歌声を披露する加藤さん。詰めかけた来場者に平和の尊さを訴えた

(撮影・山崎亮)

は「広島 愛の川」の大会唱。中沢さんが残した詩に作曲家の山本加津彦さん(35)が曲を付け、加藤さんがCD化した歌。

「語ろうよ 川に向かって 怒り、悲しみ、優しさを。広島は 世界の海へ巡り行く」

中沢さんの母校である神崎小の児童たち約150人も舞台に並び、加藤さんと一緒に歌声を響かせた。そばで聴いた中沢さんの妻ミサヨさん(72)は「小さな子どもや若い人が歌う姿に夫も喜んでいいるはず」と児童をじっと見詰めた。

舞台が終わり、加藤さんは「歌でみんなが一つになり、平和を伝える第一歩が始まった」と表情を緩めた。神崎小6年吉永壮君(11)は「二度と戦争が起こらないよう世界の人と交流したい。歌を通じて平和の大切さを伝えていきたい」と誓っていた。(加茂孝之)